

# 地域の音楽普及と音楽文化の向上に邁進

## シリーズ “架け橋” の楽器店を訪ねて Vol.4

ヤマハ音楽振興会(梅村充理事長)は、音楽文化向上に寄与する事業の1つとして、1999年から「ヤマハ音楽支援制度」を設け、『音楽奨学支援』『留学奨学支援』『音楽活動支援』『研究活動支援』、そして2010年からは『地域音楽活動支援』も加えて、5つの分野で支援活動を行っている。

中でも『地域音楽活動支援』は、対象を地域の音楽グループや団体(学校除く)とし、

応募受付窓口を楽器店に指定しているところに大きな特色があり、両者を結びつけられるにもなっている。

地域音楽振興は、特に地域に根を下ろす楽器店にとっては、事業の継続、発展を考える上で必要不可欠なテーマであることは論を俟たない。本誌では、これを好機と捉え『地域音楽活動支援』を有効に活用する楽器店取材した。(澤野)



池多順一社長

福井市を拠点に金沢市などに楽器やCD等の店舗を4か所、更に音楽ホールや練習スタジオ、音楽教室を展開する松木屋(池多順一社長)は、LM楽器を主体に鍵盤楽器や管楽器など、間口の広いビジネスをモットーとする地域密着型の老舗。

「42年前、社命により私が金沢にLM楽器専門店の『Van Van』を立ち上げたのですが、以来LM中心に市場開拓や音楽普及に取り組んできました。またアーティストの育成にも力を入れてきました。またアーティストの育成にも力を入れてきました。そんなことから鍵盤楽器や音楽教室には深く関わってこなかったのですが、5年前に社長に指名されてからは、当然のことながら全体を見るわけですが、そんな中で『地域音楽支援制度』は、地域の音楽愛好家だけでなく、私にとってもそうした人

### 福井・福井市 松木屋

達と出会うきっかけとなったので、とても助かっています」

池多社長は、地域に根付いた楽器店として存続していくためには、まず地域の音楽活動が活発になるよう環境作りに努め、音楽の楽しさを提案しなければならぬと長年取り組んで来た。学ぶ、練習する、発表する、この三拍子が揃ってこそ、音楽活動の動機、目的、継続も生まれるというわけである。

そうした言わば音楽普及の必須要件を満たす上で、大きな後押しになるのが地域音楽支援制度だと語る。

そのため社員はもとより、音楽教室の講師や生徒にもこの制度を紹介する一方、地域に對してもアピールするよう働きかけている。

「これまで全く接点が無かった人やグループから問い合わせがあるなど、確実に反応が表れており、これまで2つのグループが当店を通じて申請し、支援を受けました。」

その中には音楽教室の講師グループも含まれていますが、講師であってもきちんと音楽活動を行っているのであれば、支援の対象になるということが少しずつ浸透してきたことも良かったと思っています。

私は、講師は生徒に教えるだけでなく、自分の家族とか友人、また地域の人達と一緒に活動して音楽の楽しみを広げて欲しいと常々思っているんです。ですから講師に対してもこの制度の利用を勧めているんです」

## ステラヴォーチェ

### クラシックをベースに楽しく



左から中田久美さんと野尻ゆう子さんは声楽の講師、橋本晴美さんは大人のピアノと健康と音楽の講師、和田真実さんはピアノの講師、そして門田友紀子さんは声楽の講師。それぞれ指導者だけにその実力は折り紙つき

「地域音楽活動支援によって、福井で一番素晴らしい『ハーモニーホールふくい』で演奏会を開くことができました。たくさんのお客様に喜んでいただきましたし、私たちの目指す目的もほぼ叶えることができました」と満足気に語るのはステラヴォーチェの代表の橋本晴美さん。

ステラヴォーチェは、音楽教室の講師や地元のコラスグループを指導する声楽の講師が集まって結成されたボーカル4人とピアノ1人によるグループ。それぞれ日頃の指導の傍ら音楽活動が続いているが、ある時一緒に練習、演奏する機会が縁となって結成されたものである。

これまでクラシックを専門に勉強してきた5人だからこそできる内容、ステージを意識しつつ、世代を超えて多くの人々に楽しんでもらうためにクラシックのみならず、童謡や唱歌、昭和歌謡、映画音楽、シャンソンなど様々なジャ

ンルにトライ。地元福井を中心に、各種イベント会場、学校、病院や施設等々で、クラシックをベースにした実力のほどを披露している。

「第1部はクラシック、第2部はポップスと、メリハリのあるプログラムで、演奏会に何度も足を運んでくれる人も徐々に増えてきて、平日の昼間という時間帯にもかかわらず、ホールがいっぱいになるコンサートができるようになりました。

今後も第1部は歌曲やオペラのストーリーを分かり易く解説しながら親しみやすいものに。第2部はガラリと変わって照明、衣装も華やかに、曲毎に振り付けを交え、客席と一緒に歌ったり手拍子を打ったりと一体感を共有したステージにしたいと思っています」

客席目線に立ったステラヴォーチェの活動は、ファンを確実に増やし広がっている。

### 活発になってきた音楽活動

講師ファミリーの活躍の一例としては、昨年の『第2回家族の歌コンテスト』（ヤマハミュージックジャパン主催）でグランプリを獲得した『米口ファミリー』も、夫妻は松木屋のPMS講師であり、受賞以後、地域での活動が活発になっている。

「子どものエレクトーン発表会の時に、米口ファミリーにゲストで出してもらいました。そうすると堅苦しい雰囲気はなくなって、親近感が増すのでしょうか、とても盛り上がるんです。それが切っ掛けで音楽活動が広がる。そういうイベントをやるのがうちは好きですし、得意なんです」

少子高齢化は同店の商圈も例外ではなく、

子どもの生徒は減少気味。大人と英語の教室が堅調ということから総数をキープしている状況である。

とは言い明るい傾向も出てきている。バンドを経験した大人世代の子ども達が、バンドに取り組み始めているとか。もちろんそうなるよう仕掛けたことも見逃せない。

松木屋では、地元の新聞社やテレビ局といった各社と共同出資で、ビルの管理会社を作り、更にホールの指定管理者制度の認可を得てホールの運営を行うことを条件に、福井駅前商店街の空きビルを市に買い取ってもらい、そこにホールや練習スタジオ、録音スタジオ、会議室を備えた『響のホール』を作ってもらったのである。ここで同店では、ロックの名曲をアマチュアバンドが演奏するライブ『レジ

エンド・オブ・ロック』等々、様々なイベントを企画・開催している。

「地域ナンバーワンではなく、オンラインワゴンというか、特色ある商売を考えないと、地方都市のような小さな市場では店は存続できません。また音楽は多様化しているので、それに対応しながら音楽活動を支援していく延長線上に、教室やスタジオ、レンタルのビジネスがあつて広がっていく。そして音楽の楽しみを提案する材料の1つとして、地域音楽支援制度が存在すると認識していますので、活用しなければもったいないんです」

潜在顧客、経験層は物凄く多く、やりようによってはもっと広がるかと池多社長。地元目配りつつ先を見据えた音楽普及に取り組んでいる。